

第5回 伊勢湾漁業影響調査委員会 議事要旨

1. 開催日時：平成 27 年 12 月 22 日 10:00～13:00
2. 場 所：TKP ガ-デンシティ-名古屋新幹線口 カンファレンスホール 8A
3. 審議内容：漁業生物の予測評価方針について
伊勢湾シミュレーターの再現状況について
4. 委員の発言要旨
 - 候補地周辺のマコガレイの産卵場の寄与率を推定するため、標本船調査の結果を主体に、シミュレーションを補完的に使用しながら評価していくこととなる。
 - マコガレイの場所による産卵期のずれもシミュレーションに反映させるべき。
 - マコガレイについて産卵する際にエサの選好性が変わってくるかというのは重要。産卵期直前のマコガレイの胃内容物と、それ以外のマコガレイの胃内容物を定量的に区別できるか、専門家にも意見を聞きながら整理すること。
 - 空港等の東側の藻場と候補地およびその周辺とは生態系の関連性を考慮して整理すべき。
 - カタクチイワシの摂餌量については、胃内容物から算出しているということだが、過小評価と思う。カタクチイワシの成長速度に見合う摂餌量も計算する必要がある。摂餌量の試算をいろんなケースで実施し、どの程度の幅の中に納まるのかを確認したほうがシミュレーションの再現性の検証にとってよい。
 - カタクチイワシは貧酸素を避ける傾向があることが調査結果から見受けられる。今後は浮魚の動向については動物プランクトンの現存量に加え貧酸素からの退避も考えていかななくてはならない。
 - カタクチイワシの分布が貧酸素の分布と関連している結果は初めての知見となるため、今後のシミュレーション結果により、カタクチイワシの漁場形成に影響する可能性について検討すること。

- 岩礁帯の中に生息場がある種の現存量の把握は、標本船調査や試験曳きの結果との対比の上で計算方法を検討し定量化作業を実施していくこと。
- 空港等周辺における動植物プランクトンの再現計算において、4月から6月に流れ出るアマモの分解により生じる懸濁態有機物も計算に考慮してあるが、植物プランクトンの生産に比べどの程度の量なのかを計算結果から分離すること。
- ハマグリ等、名古屋港内で貝類の浮遊幼生が多く確認されている結果を見ると、名古屋港内に多くの母貝がいるように感じる。港内の扱いについては今後検討していく必要がある。
- 小鈴谷のアサリ大量へい死原因は水温や餌料の挙動が要因と推定されることから、今後は水温や餌料環境をシミュレーターで確認していくことが必要。
- タイラギはアサリの計算手法を用いることは難しいことが想定されるため、他海域の調査結果も含め再検討すること。
- ノリの食害について、クロダイ、メジナ、ボラが食害種の候補に挙げられていることから、それぞれの魚種の分布状況を把握するため、標本船調査や護岸生物調査の結果を整理すること。
- 計算結果で扱う重量については、湿重量ではなく炭素量で表してほしい。
- 空港島北側の流れの状況について、冬季についても整理すること。
- ソリネットの採取効率がどの程度か検討すること。
- 候補地およびその周辺がほとんどすべての重要魚種にとって重要な場になっているという結果が出てきている。伊勢湾の中で生態系の多様性を保っている海域という視点でも種の多様性指数等、いろいろな視点で検討していくこと。